

サイエンスアカデミーでは、様々な現象・事物について、「実際に見てみる」ことを大切にしています。そのため、大学、研究所や博物館、あるいは大自然に直接触れるべく、多くの場所を訪れ、学習、体験を行っています。

今回、地球や生命の歴史、科学技術の歴史、生物の進化や、宇宙・物質・法則といった自然の仕組みを学習する国立科学博物館と、動物の生態研究を目的とした上野動物園へ見学に行きました。すでにどちらにも行ったことがある生徒も多くいましたが、幼少の頃に見学した姿勢と比べ、高校生目線で見学すると発見と感動はとて大きくなります。生徒たちは集合時間ギリギリまで見学に没頭していました。

まずは上野動物園入口前でパンダの像と集合写真。写真の順番を待つ子どもたちの前で取るのは恥ずかしかったようで、いつもより行動が機敏でした。パンダの写真は新入部員(1年)が自慢の一眼レフで撮ってくれました。



思い思いの好きな動物をケータイカメラで撮り合い、みんなで見せ合っていたようです。今年は女子の入部もあり、いままでとはまた違った雰囲気でも年度が始まりました。理系女子たちの活躍にも期待しています。



国立科学博物館では興味のある分野に分かれて楽しんでいました。専門的なことは先輩に説明してもらったりと知識とともに、親睦も深まったようです。



<生徒たちの感想から>

Sさん

以前も行ったことがありましたが先生が言っていた通り、成長してから見る動物園は子供の頃とは違う角度からの見方ができ、新しい楽しみ方をすることができました。子供の頃はあまり読まなかった説明などをじっくり読むことで生態の違いや体の大きさなど詳しくわかり、驚きと発見でいっぱいでした。国立科学博物館では身近な科学を肌で感じることができ、子供だけでなく大人も楽しめると思いました。私的にはもっと化学系があるとよかった気がしました。

Oさん

上野動物園では全体を見るのではなく、興味のある動物を観察することにしました。とくにフクロウの目の動きや首の動きに興味を持ち、動きがスムーズで規則性があることを発見しました。国立科学博物館では球体のスクリーンでみた宇宙の誕生や人類の進化の映像が一番記憶に残りました。また別館の体験コーナーでは小さな子に交じって楽しんだとともに、中学校で学習した理科の原理を復習することができました。

Sさん

爬虫類館での熱帯を想像させるような蒸し暑さに驚かされるとともに、日本にはいない生物が多数集まっていることを肌で実感しました。毒を持つカエルの全身が警告色であることに生物の多様性の面白さを感じ、興味を持ちました。国立科学博物館では物質法則のコーナーを中心に見学をし、学校で学習したことや分子モデルが展示されていて非常に面白かったです。一日ではみきれないほど興味のあるコーナーがたくさんあり、ぜひまた来たいと思います。

新入部員10名を迎え、総勢34名で今年度が始まりました。今はオープンスクールの企画が決まり、成功率を上げるために日々研究を重ね、試行錯誤を繰り返しています。今後活躍の幅をひろげるとともに、今まで先輩たちが行ってきた研究を引き継ぎ、より発展させるために頑張っていきたいと思います。